

令和 6 年度事業報告

社会福祉法人至誠会

ケアハウスみどりの風・おかべ

みどりの風デイサービスセンター

<ケアハウス入居部門>

(Ⅰ) 入居者実績

- 1) 一般型(定員6): 6名
 2) 特定施設(定員36): 36名

(Ⅱ) 年間退居者実績

項目	令和6年度	前年度
退居者総数	6名(男性1・女性5)	9名(男性2・女性7)
退居理由	入院0名	入院0名
	看取り6名(男性1・女性5)	看取り7名(女性7名)
	他施設入所0名	他施設入所2名(男性2)

(Ⅲ) 年間行事実績

参考資料①参照

(Ⅳ) カンファレンス実績(年間12回実施)

実施日					
4月17日	5月15日	6月12日	7月17日	8月28日	9月25日
10月16日	11月20日	12月18日	1月29日	2月19日	3月26日

入居者様の状況(男女比・年齢・住所地・介護度の変遷)

① 一般型(1階6室)

令和7年3月31日現在

		令和7年 3月	令和6年 3月	令和5年 3月	令和4年 3月	令和2年 3月	平成30年 4月
男 性		4名	4名	3名	3名	2名	1名
女 性		2名	2名	3名	3名	3名	4名
男女比		66:34	66:34	50:50	50:50	25:75	20:80
平均年齢		79.2歳	78.0歳	75.0歳	78.5歳	84.8歳	82.0歳
住 所 地	藤枝市 (うち岡部町)	6名 (3名)	5名 (2名)	6名 (2名)	6名 (2名)	4名 (1名)	4名 (1名)
	焼津市	0名	0名	0名	0名	1名	1名
	島田市	0名	0名	0名	0名	0名	0名
	静岡市	0名	0名	0名	0名	0名	0名
	その他の市町	0名	1名	0名	0名	0名	0名

② 特定施設（介護付 2・3階）

令和7年3月31日現在

		令和7年 3月	令和6年 3月	令和5年 3月	令和4年 3月	令和2年 3月	平成30年 4月
男 性		6名	6名	8名	4名	3名	7名
女 性		30名	30名	28名	32名	32名	27名
男女比		17：83	17：83	22：78	11：89	11：89	23：77
平均年齢		90.81歳	90.69歳	89.36歳	88.91歳	88.91歳	88.56歳
住 所 地	藤枝市 (うち岡部町)	27名 (20名)	30名 (23名)	30名 (23名)	28名 (24名)	28名 (14名)	21名 (9名)
	焼津市	4名	2名	3名	5名	4名	9名
	島田市	0名	0名	0名	0名	0名	1名
	静岡市	2名	2名	1名	1名	3名	3名
	その他の市町	3名	2名	2名	2名	0名	0名
介 護 度	要支援1	0名	0名	0名	0名	2名	1名
	要支援2	1名	1名	0名	1名	0名	0名
	要介護1	8名	4名	7名	13名	14名	13名
	要介護2	12名	18名	12名	8名	5名	4名
	要介護3	5名	2名	4名	4名	6名	8名
	要介護4	5名	5名	7名	4名	6名	7名
	要介護5	5名	6名	6名	6名	2名	1名
	平均介護度	2.57	2.68	2.81	2.52	2.19	2.33

(V) 感染症対策

- * 三輪医院や行政発信の情報をいち早く収集し、掲示板やグループ LINE 等を使い職員へ迅速な情報提供に努めてきた。
- * 静岡県の情報を基に法人独自のルールを作り面会や外出等の対応を柔軟に行った。
- * 職員の感染予防徹底と、施設に持ち込まない・入居者様に感染させないことを継続して行ってきたが12月、入居者様にコロナ陽性者発生。年末から年始にかけ職員も含め13名が感染。10名以上の感染を確認した為、静岡県と藤枝市に報告。1月19日に完全終息を迎えた。

(VI) ICT 化の推進

- * 事業所間の情報連絡ツール「メルタス」を活用し情報共有に努め他の部門と連携を図った。
- * パソコンを使いオンラインでの研修参加を推奨。研修会場へ行かずに参加できるため参加率向上につながった。
- * Instagram を活用し施設の魅力発信に努め地域の方々をはじめ多くの人たちにみどりの風・おかべを知っていただくような取り組みを意識し取り組んだ。

(Ⅶ) 入居者個別支援

- * 事故予防の一環で介助バーやセンサーを個別に使用し毎月行われるカンファレンスで評価を繰り返し適切な使用に結び付けた。
- * コロナ対策として色々な制限がある中、入居者本人やその家族から面会や外出に関する問い合わせが聞かれた。その都度理事長へ報告、条件付きで自宅の整理や役場での手続き、お墓参り等…やむを得ない理由に付き外出を許可した。※令和7年4月5日以降面会、外出が可能となっている。

(Ⅷ) 防災の取り組み

- * 水防避難訓練（岡部聖母保育園と連携）の実施(6月)
地震・火災想定避難訓練（10月）※消防署より煙発生装置を借用
停電訓練（1月） 情報伝達訓練（12月） 消火訓練（年2回）
- * 【デイサービス】8月29、30日に台風10号上陸。台風の影響で営業開始の8時30分に職員の人数が揃わないことが考えられ早朝より家人宅へ連絡。家人送迎の協力依頼を行った。10分遅れの9時40分送迎終了し営業開始。
欠席者1名、家人送迎14名、施設送迎19名。
- * 非常用自家発電機の稼働。非常時に備え毎月行われる防災委員会内にて試運転を行い操作方法、切り替え開閉器の場所、主観ブレーカの場所、停電時の使用可能コンセントの場所の確認を行った。

(Ⅸ) リハビリの実践

- * 午前中は集団体操、午後には個別リハビリを行いながら機能維持に努めた。
- * 通所介護配属の機能訓練士と連携を図りケアハウス入居者は午前中と夕方、通所利用者は午後の時間を活用し3階にあるリハビリ室を有効に活用できている。
- * リハビリ部門長も参加する月1回の会議を毎月実施。リハビリ部門として情報を共有。通所と入居、部署を越えた連携に繋げている。
新規や退院時入居者受け入れの際、みどりの風のリハビリ職3名で入居前情報を共有、受け入れ体制を整えている。

(Ⅹ) 研修計画

- * 年間研修計画に沿って研修、訓練、勉強会を試みるも外部研修に参加できるような調整が困難な為、オンラインでの研修参加が多くなった。個別参加と委員会内で複数人参加ができる体制で実施。
- * 玄関の掲示板を整理し静岡県社会福祉協議会、静岡県老人福祉施設協議会、静岡県介護福祉士会が運営する県有案内を随時行ってきた。

(XI) 広報活動

- * Instagram を新規開設し約 3 年が経過。施設の取り組みや入居者様の生活の様子、空室状況や地域の情報等、施設内部の取り組みを外部へ発信してきた。
- * 第 13 回静岡県高齢者福祉研究大会へ介護職員が参加し「看取りケア」に関する発表を行い施設の名前や取り組みを広めてきた。他の施設の発表を聞くことで他施設の職員との交流もあり新たな関係構築の場にもなった。
- * 「みどりの風・おかべ」を知ってもらう為に介護職員が就職相談会等へ出向いた。ブースに来られた方々へ自職場の事を自らの言葉で伝え、将来的に就職へ結び付く活動として参加した。
- * 地域包括支援センターや藤枝、焼津の社会福祉協議会との連携、ユニケア岡部との情報共有から待機者の確保に努めている。

参考資料① 令和6年度年間行事実績

月	法人	ケアハウス	デイサービス	共同行事・訓練等
4		桜花見(1日、2日) 藤の花見(19日)	12周年お祝いの会(1日) 桜・藤花見(8日・10日・15日) 介護保険改正勉強会	ガウンテクニック(5日)
5	監事監査 (23日)	新茶会(10日)	新茶会(10日) バラ花見(17日、18日)	
6	理事会 (6日) 評議員会 (21日)	アジサイ見学、買い物外出(5日) 運動会(26日)	紫陽花花見(10日～13日) 入浴、認知症、中重度加算勉強会(4日) 認知症ケア勉強会(14日)	水防避難訓練(27日) (岡部聖母保育園と合同)
7		ソフトクリーム (19・21日)	おやつ作り(11日)	炊き出し訓練(23日) 消火訓練(22日～26日)
8	理事会 (27日)	七夕飾り(1日)	七夕の会 納涼会(7日、8日)	
9		敬老会(18日)	敬老会(16日) つたの細道散策(14日) 彼岸花花見(30日)	
10			運動会(21日、22日) コスモス花見(30日、31日)	防災避難訓練(23日)
11		秋祭り(2日)	味噌作り(12日) 恵比寿講(19日)	
12		音楽会(3日) 焼き芋(10日) プチケーキデコレーション (25日)	紅葉見学(6日) ヒマラヤ桜花見(9日) 忘年会(12日、13日)	
1	理事会 (16日)	新年会(6日) 握り寿司(21日)	新年の会(6日)	情報伝達訓練(9日) 停電
2		節分、豆まき(2日)	節分の会(3日) 梅花見(27日)	嘔吐処理手順(7日) 炊き出し訓練(8日) 情報伝達訓練(19日) 消防検査(21日)
3	理事会 (26日)		入浴介助勉強会(7日) 河津桜花見(10日) 木蓮花見(17日～21日) 事故事例検討会(21日) 認知症ケア事例検討会 (24日)	消火訓練(24日～28日)

通年行事

ケアハウス	デイサービス
・喫茶の時間(毎週火曜日午後) ・売店の実施(毎週金曜日午後) ・園芸活動(4月下旬 さつま芋植え)	・ケアカンファレンス・サービス担当者会議 ・クラブ活動(園芸・調理・作品・手芸・音楽・なごみ)
・感染予防委員会(第1水曜)・事故(虐待・拘束)委員会(第3水曜)・防災委員会(第3金曜) ・給食委員会(不定期)・ケアカンファレンス(毎月1回)・リハビリ会議(毎月1回) ・部門長会議(毎月1回)・経営会議(毎月1回)・通所会議(3ヶ月に1回)	

<デイサービス部門>

(Ⅰ) 年間利用者実績 (定員 40 名)

* 土曜営業中止 (10 月～) により日数・延人数が減少。休止・終了者増も延人数の低下に影響した。

項目	令和 6 年度	令和 5 年度	令和 4 年度
営業日数	280 日	307 日	308 日
年間利用延人数	7,741 名	8,176 名	8,634 名
平均利用人数 (土除く)	29.2 名	29.6 名	31.0 名
平均介護度	2.3	2.5	2.0
新規件数	27 名	24 名	16 名
再開件数	11 名	14 名	9 名
終了件数	37 名	36 名	25 名
休止件数	10 名	16 名	10 名
利用増件数	31 名	23 名	22 名

年間休止者・終了者の内訳 (計 47 名)

* 自宅での転倒 (骨折) による休止・終了者が多い一年であった。

項目	令和 6 年度	令和 5 年度	令和 4 年度
死亡	10 名	8 名	6 名
入院	15 名 (終了 5・休止 10)	16 名 (終了 3・休止 13)	9 名
ユニケア入所	15 名 (うち在宅復帰 2)	12 名 (うち在宅復帰 2)	10 名
ケアハウス入居	0 名	4 名	4 名
他施設入所	3 名	11 名	3 名
その他	4 名 (自宅療養 4)	1 名 (自宅療養 1)	3 名

利用者の内訳 (登録人数 64 名：令和 7 年 3 月 31 日)

* 朝比奈地区の利用人数に減少がみられるも、年間を通した推移には波があり大きな変化はみられない。

介護度				年齢		性別		居住地	
要支援 1	0 名	要介護 1	22 名	60 代	1 名	男性	13 名	藤枝市岡部地区	44 名
要支援 2	4 名	要介護 2	21 名	70 代	5 名	女性	51 名	朝比奈地区	6 名
		要介護 3	11 名	80 代	33 名			葉梨・広幡地区	14 名
		要介護 4	1 名	90 代	23 名				
		要介護 5	5 名	100 代	2 名				
		平均介護度 2.1		平均年齢 87.7 歳		男女比 20 : 80		居住地 69 : 9 : 22	

(Ⅱ) 年間行事实績 参考資料①参照

* デイサービスらしい活気的な活動が再開でき、多くのご家族からも喜びの声が聞かれる一年となった。

(Ⅲ) カンファレンス実績 (計 117 件)

* 担当学会議へも多く参加。他部門との連携で、ご本人・ご家族の声をケア内容に繋げることができた。

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
12 件	12 件	7 件	9 件	12 件	12 件	8 件	8 件	6 件	8 件	10 件	13 件

(Ⅳ) 事故、ヒヤリ・ハット報告件数 (計 19 件)

* 転倒事故は件数あるも、ケガに繋がるものはごく少数であった。内服忘れなどの管理ミスが多かった。

事故報告 15 件							
転倒	7 件	外傷	2 件	内服忘れ	5 件	点眼忘れ	1 件

ヒヤリ・ハット報告 4 件							
降車忘れ (10 分間)	1 件	シャワーチェアの前傾	1 件	膝折れ	1 件	独りで玄関へ	1 件

(Ⅴ) 安定したサービス提供への取り組み

* 土曜日利用のニーズが少ないため、10 月からの営業を月～金曜日の週 5 日へと変更した。土曜日に通われていたご利用者のほとんどが他曜日への変更に協力くださり、各ご家庭に大きな影響はみられなかった。又、週 5 日営業の運営に見合った職員の人員体制の見直しに取り組んだ。

(Ⅵ) 2 チーム制の充実

* 昨年度から始まった 2 チーム制の更なる安定に取り組んだ。営業日の変更や職員の異動による人員数減少に合わせたシステム作り、働き方についての創意・工夫を行った。又、ご利用者へのサービスの質を落とすことのない運営に努めた。人員体制の適正化・働き易い職場作り・利用率の向上など、今後の課題に繋がっていく重要な取り組みとなった。

(Ⅶ) 自立支援の理解と実践

* 介護保険改正に伴いデイの加算について改めて学び、内容の理解を深めた。又、入浴介助勉強会・認知症ケア事例検討会などを開き、ご利用者個々の自立支援について検討を行った。検討結果をデイ計画書などに取り入れ、ケアの実践として活かすことができた。

(Ⅷ) デジタル化の促進

* 事務職員と連携し、利用実績管理の簡素化に取り組んだ。請求に直結する作業であるため、間違いを起こすことのない確実な管理のシステム作りを行った。ケアマネ事業所ともデジタル上で実績の管理を共有できるようになり、双方にとって業務量の軽減へと繋がった。